

## 令和3年度一日教育委員会（教育懇談会）意見交換記録（要旨）

□日時 令和3年12月20日（月）18:00～19:00

□場所 山梨県東山梨合同庁舎

□出席者 分科会1：8人、分科会2：12人

|   |     |    |   |     |     |
|---|-----|----|---|-----|-----|
| 〔 | 小学生 | 3人 | 〔 | 中学生 | 2人  |
|   | 高校生 | 2人 |   | 一般  | 10人 |
|   | 一般  | 3人 |   |     |     |

### 分科会1 郷土への愛情や誇りを育むための郷土学習の推進について

#### <事務局からテーマについて説明>

##### 参加者

・高校の授業で模擬裁判体験をしているという説明があったが、表面的なことではなく本質的なところをしっかりと伝えられる人を講師に選んでいただきたい。例えばSDGsの授業では、これからこういう未来を作っていこうではなくて、今まで私たち人類がどういうことをしてきたのか、そして今解決できないことをないがしろにしないでそこを見せて考えて未来を作っていくとか、そういうことができる人を是非とも講師に選んで欲しい。

##### 参加者

・今こういう問題に陥っていてこのままだと社会が将来良くない方向に行ってしまうからSDGsを学ぶというようなことを知る機会をもっと増やしていただきたい。

##### 参加者

・SDGsのことが（小）学校の授業であまりないのでもっと増やした方がいい。

##### 参加者

・高校でSDGsや地域のことを学んでいるので、それらについての学習機会は多いと感じる。私はSDGsや地域のことについて専門家の方や大学の方から意見を聞く機会が多いと感じている。

##### 参加者

・地域の道祖神や神社、お祭りなどを知る機会が少なくなってきているので学校でそういう機会があるといい。

### 参加者

・学校にゆとりをもってもらって、外部の先生がたくさん来てお祭りなどを伝えられるような時間をもっとたくさんもってほしい。祭りのことに詳しい人たちが話をしたり、鐘や太鼓を叩いたりするようなことを授業の中に取り入れていけばいいのではないかと思う。

### 小澤委員

・視野を広めて山梨以外の地域も外から見つめてみて、郷土の良さを知って、またそれを伝える人が少ないという話が出てきているが、伝える側という自分というのも意識してこれからの学びに生かして欲しい。

・今日ここで集まった人たちが何か新しい繋がりを作るとか、何かを話すとか、そういった場になって欲しい。高校生の皆さんはここでもし興味を持った大人の人がいたら話を聞いてみるとか、自分の仲間に紹介してみるとか、今日ここでこの時間を共有した仲間から何かが生まれたらいいなと思っている。

### 参加者

・自分の地域のお祭りをやっている人にインタビューをしたら、地域では実際に子どもの数が減っていて、行事を従来の方で行うことが困難になっていたり、形を教えることだけに精一杯になっていたりする現状があるというような話を伺った。子どもたちもそういうことを学ぶ機会が形だけじゃなくて、こういう意味があって、こういうことをするのだということを学んだほうが絶対にやることに意味がもっと深くなると思うし、そういう機会があった方がいいのではないかなと考えている。

### →岡部委員

そのとおりである。

### 参加者

・SDGsの17の目標を知って満足するだけでなく、目標にあるということは以前に問題があったということなので、過去の問題を知って、現状を知った上で理解してこれから自分たちはどうすればいいかと考える学習をしていければと思う。

### →小澤委員

・どうしたら学校でもっとできるようになると思うか。

#### ⇒参加者

・例えば総合の学習の時間で一つ興味を持ったものの昔のことを調べて、現状を調べて、自分で将来どういうことをしていけば、これが改善できるかなということを考える。そして学校や周りの人に知らせるという学習をしていけばと思う。

#### →小澤委員

・(小学生に対して) 友達は総合的な学習の時間は結構好きか。楽しい時間か。

#### ⇒参加者

・場合による。

#### →小澤委員

・高校生はどうか。

#### ⇒参加者

・高校の授業では自分の好きなことをやっているのに意欲的にはできているが、自分が小学校、中学校の時にどうだったかと考えると、そんなに意欲的に取り組んでいけていたのかなという感じだし、ふるさと山梨みたいなものも夏休みの課題であったが、やつつけ仕事になっていた部分もあり、そういう友達も多かった印象があるので、何でこういうことをやらなきゃいけないのかということ意識することが大切なんじゃないかなと思う。

・小中学校の時、どこかに出向くみたいな形は少なかったような思いがある。学校の教室の中で何か調べ事をするような機会が多かったと思う。

#### 参加者

・総合的な学習の時間は、調べてまとめて終わる。何でこれが問題なのかというのを理解していないかと思うので、例えば現地に行って、この問題を本当に実感し、行かなくてもこういうふうに自分事として実感できるような仕組みや学習にしていけたらいいと思う。

#### 岡部委員

・SDGsについて、何か目標にするということは何か問題点があったからであると。その問題点を知ることと、現状はどうであるのか、次はどういうふうにしていくのだということは、ふるさとを愛していくために必要なことであると思う。

## 分科会2 地域との連携について

### <事務局及び教育委員からテーマについて説明>

#### 参加者

・一宮中学校で挨拶運動を地域と一緒にやろうということで、生徒会にチラシを作らせて、区長会に生徒会長から僕たちと挨拶しましょう宣言をした。区長さん始め地域の方々は小中学生に話をしてはまずいと思っていったとのこと。挨拶しましょう宣言はしてよかったと思っている。

・学校サポーターとして、今、不登校が多いので、心の体操で実績を上げた先生が見つかったので、その先生を学校に呼んで学校で取り組んでみようかということ考えた。

・通学路に危険性があるので、オープンデータを使って見える化できないか、スクーミーという会社と一緒に話し合いをしながらやろうと思っているが、学校では中々難しいので、地域で高校生を活用して今後やっていきたい。

#### →佐藤委員

・学校サポーターということで、何とか学校のお助け隊になっていただこうという、それを地域の区長会等を通してより広い人たちに周知して、そういう力を学校に向けていきたいというお考えをいただいて、すごく頼もしく感じた。

#### 参加者

・地域へ石和中を発信しようと思っていて、これまで様々なことを行ってきた。最初に石和町の区長会というのがあって、その中で石和中の魅力について発表をさせていただいた。自転車の乗り方、挨拶、学力向上、いじめ撲滅の4点を中心にお話しをさせていただいたことがある。挨拶の取り組みや学力向上の取り組みなど石和中の魅力というものに直結するような課題を改善していった。そして、来年の1月に地域アンケートというものに挑戦したいと思っている。これは2019年の1月にも行ったが、石和中に対してのイメージというか、地域のイメージというものが悪くて結構驚き、がっかりし、改善しなくてはと新たにがんばろうという気持ちになった。その地域アンケートに再挑戦する。

#### 参加者

・笛吹高校ではキャリア教育的な視点の中で笛吹市と包括連携を行っている。小学校、中学校やフリースクールに出前授業に行き、交流をしている。学校の中に地域と連携するための窓口を用意しておけば、ネットワークがどんどん広がり、キャリア教育的な視点でもって学びが展開できると思う。

#### →佐藤委員

・学校に窓口を作らないと地域に出にくい、言いにくい。地域は地域で学校に言いにくいというようなことで、石和中学校は地域アンケートという形で地域といろいろ繋がりをもって、そして地域がどんな評価をしているかということを知って、そして新たな課題を探して、その課題解決のために生徒も先生たちも、そして地域の皆さんからお力をいただいて三者でやっているということに最前線かなと思ひ感動した。

#### 参加者

・石和中学校は外部のコーチの先生が関わってくださる部活もあり、学校の先生が関わってくださるのもすごくありがたいが、やっぱり地域の方がそこに入ってきてくださるのがすごくありがたいし、また子どもたちが学校の中だけでなく、そういうところで人と繋がりを持つてというのが本当にありがたいなというふうに思っている。

#### 参加者

・学習指導要領の中でいろいろ読んでいくと、逆に地域と離れて行ってしまうのではないかとということを心配している。総合的学習の時間とか、もっと地域に子どもたちが目を向けられるような機会があったらいいのではないかと。

#### →佐藤委員

・地域と離れていくという感覚をお持ちになっている原因は何か。

#### ⇒参加者

・子どもが小学生で地域探検とかで様々な地域の様々な人に会う活動はしているが、私が少し心配しているのは、実は甲州市で中学校の統合の話が出ていて、今、松里地域と神金地域にある中学校を塩山の駅の方にある中学校にみんなまとめてしまおうという話が出ている。そうすると、今、例えば松里地域とか神金地域の少し子どもが少ない地域に住んでいる子どもたちは、中学校で勉強する地域学習はどうしても学校の近くに、例えば学校の総合の時間に外に出て地域の人と触れ合ったり、勉強したりという場合に、どうしても塩山の駅周辺のことを勉強するような感じになってしまうので、そうすると今のこの地域の連携とか地域のことを勉強したりとかその地域の人たちと触れ合うという今進めている教育の流れとは逆行してしまうのではないかと心配がある。

#### →佐藤委員

・もっと地域を見つめなければいけないのではないかとのお話が胸に響いた。

## 参加者

・甲州市は公立の小学校中学校すべての学校で歯科保健指導という授業をしているが、市町村によって保健教育にやや格差があるので、市町村間で保健教育の格差がない方がいい。学校に行っている子と学校に行けない子、フリースクールに行っている子との保健教育の格差もない方がいい。

## →佐藤委員

・私の知る範囲では、かなり養護教諭の先生が年間のカリキュラムを組んで、今、養護教諭の先生も教壇に立てるので、結構歯科衛生士の先生、私の場合は歯医者さん呼んで子どもたちの集会のお話をしていただいた。回数は地域によって温度差があるかもしれないが、やっていることはやっているかなという感触であるが、ちょっと温度差があるということを感じられているということですね。

## 参加者

・部活動に30代、40代の地域人材を登用するとなった時に、長い目で見たらもっと若い人を入れ込まないといけないのかなと思うのもっとPRをするといい。大学に行っている人は部活動等を通じて外部人材について知ることができるが、大学を卒業してからだと自分で探さない限り外部人材を見つけられない。

## →佐藤委員

・若い大学生が卒業後仕事に就いて、その余暇の時間というか、少し時間が取れて、そういう人たちをある程度の報酬が出るという形で雇用してもらえれば、長く続けて、若ければずっと指導者をしてもらえるとということですね。そのつなぎをどうしたらいいのかということですね。思いがあっても、その人が外部指導者として使ってもらえないとか、そういうことの道筋を何か付けたいということをお話しして下さったと捉えていいか。

## ⇒参加者

・はい。

## 佐藤委員

・外部人材の雇用のために何かこういうことがあるともっとやりやすいというのはあるか。ゲストティーチャーを呼ぶのに、例えば人材バンクみたいなものが県にあって、そこに問い合わせをすればすぐ人を選べるというようなシステムがいいのか。もっと地域で作られた方がいいか。

### ⇒参加者

・学校と地域との窓口が必要である。窓口を学校がやると今学校はいろんなことをやっていて、すごく多忙化が進んでいるので、なかなか新しいことに挑戦するというのが正直言って難しいかなというところである。学校の教員は異動があるので、全然知らない地域に行くと地域の人等も全然分からないので、その地域に根差した方で学校と地域を繋いでくれるような方がいればすごくありがたいなということは感じる。

### 参加者

・県内で教育格差があると思う。地域のことをこのくらい学びましょうという時間の設定をしてはどうか。地域によってばらつきがある。先ほど保健教育の話があったが、私の学校では外部講師を呼んでの授業は受けたことがないと思う。さらに教達検というテストが山梨県にあるが、甲府市はまた違う校長会というテストがあって、高校入試の目安になるのに何でそこは違うのか、何で統一しないのかと疑問を持っている。格差を是正して、みんなが均等に良い教育を受けられるように、県の教育委員会の方でも取り組んでもらいたい。